

『講義計画』の原稿依頼について

今年もはや、2003年度版『講義計画』の原稿をお願いする時期となりました。下記要領で執筆いただきますようよろしくお願いいたします。(原稿締切日:1月16日(木)教務部へご提出ください。)
2003年度 先生の講義担当科目

1. 講義内容が同一で複数コマ開講される科目は、まとめて1つの講義計画としていただいても結構です。
2. 「年間計画」(表形式)は、通年の場合、春学期・秋学期あわせて24～26週(回)分の講義テーマをご記入ください。半期完結科目は、12～14週(回)分の講義テーマをご記入ください。
3. 「テキスト」、「必携書」(テキスト以外)、「参考文献」については、項目ごとに簡潔にご記入ください。
4. 字数については、1科目・1担当者=1ページを基本としますので、できるだけ1,800字以内にまとめていただくようお願いします。
5. ワードプロで作成いただき、FDまたは、E-mailの添付ファイルで提出いただいても結構です。E-mailアドレスは、Syllabus@osaka-ue.ac.jpです。
6. 手書きされる場合は、原稿用紙を教務部へご請求ください。
7. 昨年度版にご執筆いただいた先生には、掲載頁を、新規の先生には、サンプル頁を同封いたします。
8. 締め切りは真に恐縮ですが、2003年1月16日(木)とさせていただきます。

部	科目名	担当者名	単位	期別
2	情報経営論 I	吉井康雄		春

講義内容

この科目は隔年開講であることに注意してください。

情報経営論 I では、経営システムと情報とのかかわりについて講義をします。最初に第 4 の経営資源、知的資産としての情報の概念とその特質を説明し、次いで経営システムの諸活動を、新製品開発管理、生産、販売、流通といった企業行動の側面と消費者ニーズ、消費者行動といった消費者の側面から説明します。

次の段階では、このような情報を広告コミュニケーションの観点と経営戦略の観点から説明します。

最後に、このような情報の戦略的活用についてその方法論を新製品新事業戦略の観点とビジネスプロセスリエンジニアリングの観点から説明します。

経営情報に対するこれらの理解のもとで、次のステップの情報経営論 II では情報 VE を紹介し、諸君の競争力強化につなげたいと考えています。

講義方法と学習上の留意点

評価方法

試験により評価します。

テキスト

プリントにより講義をします。

参考文献

講義のときに適宜紹介します。

学生への要望

質問を歓迎します。欠席しないように。

回数	年間計画
	I) 経営システムの理解を深め、知的資産としての情報を理解するベースを共有する <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の概念と情報の表現 (1) 2. 情報の概念と情報の表現 (2) 3. 企業行動、その機能的側面 (1) 4. 企業行動、その機能的側面 (2) 5. 消費者心理と消費行動 (1) 6. 消費者心理と消費行動 (2)
	II) 広告コミュニケーション、経営戦略の観点から情報の重要性を理解する <ol style="list-style-type: none"> 7. 広告コミュニケーションと情報 8. 経営戦略と情動的経営資源 (1) 9. 経営戦略と情動的経営資源 (2) 10. 経営戦略と情動的経営資源 (3)
	III) 経営情報の戦略的活用のケーススタディとして、経営システムと経営革新について考える <ol style="list-style-type: none"> 11. 経営革新と戦略的思考 (1) 12. 経営革新と戦略的思考 (2) 13. 経営革新と戦略的思考 (3)

部	科目名	担当者名	単位	期別
2	情報経営論 II	吉井康雄		秋

講義内容

この科目は隔年開講であることに注意してください。

情報経営論 I を受講した学生諸君を意識して講義をすすめる。ただし、情報経営論を受講していなくても完結した内容ではあるが、可能なかぎり情報経営論を受講したあと、この学科目を受講していただきたい。

システムとはある目的を達成するための有機的な組織体であると定義すると、企業もまたシステムである。一般にシステムはその目的を効率的にかつ有効的に達成するために、システムの内外との情報の交流をとおして有意義な行動をとろうとしている。これは企業を例にすると、戦略的な、あるいは効率的な経営行動と理解してさしつかえない。

このような経営行動には次の2つの立場が考えられる。

- システムの目的を達成するために、行動主体であるシステム自らが目的達成にむけて如何に意思決定し、行動すべきか、ということ科学的に考える立場
- システムの目的を達成するために、その構成要素である行動主体が如何に効率的にかつ有効的に意思決定を行い、行動するか、ということ科学的に考える立場

今回情報経営論 II で講義する情報 VE はこの2つの立場に十分適用しうる優れたアプローチである。

したがって、最初に経営活動の観点から情報 VE を紹介し、次いで、個人レベルに視点をうつして、如何に経営の諸問題に VE 的思考でもってアプローチするとよいか、を紹介する。

その意図は、諸君自らが自らの目的を達成する、あるいは問題解決をするノウハウを身につけていただきたい、ということにある。これは実践してこそ価値のある生きた学問で

あると私は信じている。

講義方法と学習上の留意点

評価方法

試験により評価します。

テキスト

新・VEの基本 (産能大出版部) 2000円

参考文献

講義のときに適宜紹介します。

学生への要望

質問を歓迎します。欠席しないように。

回数	年間計画
I)	情報 VE とは <ol style="list-style-type: none"> 1. バリューエンジニアリングの歴史 2. 経営革新ツールとしての情報 VE の有効性 (1) 3. 経営革新ツールとしての情報 VE の有効性 (2)
II)	情報 VE のすすめ <ol style="list-style-type: none"> 4. 機能とは 5. 機能定義 6. 機能系統図 7. 機能整理と機能評価 8. 代替案とその発想 (1) 9. 代替案とその発想 (2) 10. 代替案とその発想 (3) 11. 代替案の評価 (1) 12. 代替案の評価 (2) 13. 代替案の評価 (3)

2004年以降2010年まで、原告は2部担当から外れる

◆ 吉井担当の2部科目を、2004年度以降、非常勤講師に振り替える
 (北村實学部長、樋口克次副学部長・カリキュラム委員長の決定による結果)

講義計画
Syllabus
 OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS

所属 **キーワード**

開設年度: 2006

- ▶ 全学部
- ▶ 経営学部第1部経営学科
- ▶ 経営学部第1部ビジネス法学科
- ▶ 経営情報学部経営情報学科
- ▶ 経営情報学部ビジネス情報学科
- ▶ 経営情報学部ファイナンス学科
- ▶ 人間科学部人間科学科
- ▶ 経済学部経済学科デイトタイム履修
- ▶ 経済学部経済学科フレックス履修
- ▶ 経済学部経済学科イブニング履修
- ▶ 経済学部地域政策学科
- ▶ 経済学部第2部経済学科
- ▶ **経営学部第2部経営学科**

* * *
* * *

大阪経済大学

2006年度 シラバス <経営学部第2部経営学科>

担当教員名順に表示しています。

<あ/か/さ/た/な/は/ま/や/ら/わ/他> 演習科目

No.	年度	開講	曜日	時限	教員名	
1	2006	春学期	土	6	當卓也	販売管理特論Ⅱ
2	2006	春学期	土	7	當卓也	販売管理特論Ⅲ
3	2006	秋学期	土	6	當卓也	販売管理特論Ⅰ
4	2006	春学期	金	6	網永 肇	自然地理学
5	2006	春学期	月	6	家本 修	情報科教育法Ⅰ[教職]
6	2006	秋学期	月	6	家本 修	情報科教育法Ⅱ[教職]
7	2006	春学期	金	6	井口吉男	政治学入門
8	2006	秋学期	金	6	井口吉男	現代の政治
9	2006	春学期	火	7	池野重男	保険論Ⅰ
10	2006	秋学期	火	7	池野重男	保険論Ⅱ
11	2006	春学期	金	6	伊藤和夫	マネジメントゲーム-JⅠ
12	2006	春学期	金	7	伊藤和夫	マネジメントゲーム-JⅡ
13	2006	秋学期	金	6	伊藤和夫	マネジメントゲーム-SⅠ
14	2006	秋学期	金	7	伊藤和夫	マネジメントゲーム-SⅡ
28	2006	秋学期	水	6	岩崎和文	財務諸表特論Ⅱ
29	2006	秋学期	木	6	岩本真一	日本の歴史
30	2006	春学期	水	6	宇多小路勝	情報経営論Ⅰ
31	2006	秋学期	水	6	宇多小路勝	情報経営論Ⅱ
32	2006	春学期	木	3	江島由裕	企画力開発講座(大学の広報・PR戦略をつくる)
33	2006	春学期	木	3	江島由裕	企画力開発講座(大学の広報・PR戦略をつくる)
34	2006	春学期	木	4	江島由裕	企画力開発講座(大学の広報・PR戦略をつくる)